

# 特集◎がんばる！志賀っ子

志賀町の未来を担う子どもたちが地域に貢献しようと活動したり、スポーツに励み、活躍する様子をスポットを当て、特集します。



## 明るい気持ちになってほしい 応援に感謝、地域に恩返ししたい

7月25日(木)、羽咋署高浜交番近くにある地下道。志賀中学生女子2人と志賀高校生男子4人が、鉛筆で下書きされた壁の絵に一生懸命色を塗っていました。

「地下道を通る人に明るい気持ちになってほしいと思い、絵を描いています。」女子2人は答えました。2人は志賀中美術部3年の芳岡志穂さんと辻淳美さんで、壁画のデザインを考案。側壁全体に町花のハマナスや、志賀の海にちなんだカモメなどの下書きをしました。「壁に描くのは初めてのことで、大きく描くのが大変でした」と辻さんは語りました。



デザインを考えた辻さん(左)と芳岡さん(右)

2人に加え、志賀高から、夏の高校野球県大会を終えて野球部を引退したばかりの3年生4人が現地作業に参加していました。

「地域の皆さんが応援してくれたことに感謝し、何か地域に恩返ししたくて」と志賀高校野球部で主将を務めた日爪亨輔さんは部員4人が参加した理由を話しました。

全長23mの地下道は、国道249号を横断し、高浜小学校児童が登下校で利用しています。老朽化した壁面が修理されたのに合わせ、地下道の雰囲気をも明るくしようと集まった6人が、現地作業二日間で壁画を完成させました。

真夏の熱い中、地下道には風もなく、熱気が立ち込めていました。扇風機を回しましたが、風を向けたのは6人の方ではなく、ペイントした壁画の方に。それでも、6人はひたすら壁に絵を描き続けていました。完成した壁画について6人は、

### 地下道を通ったヒトの声



岐阜県在住 小瀬新さん(高浜町出身)ご主人、2人の息子さんと共に帰省中。

### ◎地下道を通った感想は？

「とても綺麗に描けているので地域の皆さんや子どもたちに見に来てもらい、喜んでもらえれば嬉しいです」と話しました。

とても明るくて素敵になっていてビックリしました。実家がこの近所で、小学生時代、通学に通っていましたが、ジメジメして暗く、ゴミも落ちていて一人では怖くて通れないほどでした。私が小さい時からこうなっていたら良かったですね。明るく綺麗になった地下道を保ち続けていってほしいです。

### ◎志賀っ子について

志賀の子は皆元気に挨拶してくれます。知らない人にも自分から大きな声で挨拶できるというところは素晴らしいことですね。



壁画の完成を喜ぶ6人



福浦港出身の大家さんは、現在山梨学院大学で学びながら、ホッケーの練習に試合にと日夜頑張っています。先日、大学生の日本代表としてロシアで開催されたユニバーシアード大会に出場しました。この大会は、2年に1度開催されるいわゆる大学のオリンピック。1勝2敗2引き分けという結果で、世界で1勝することの難しさを痛感したといっています。大会を終えて志賀町に帰省した大家さんにインタビューしました。

## うまくなるには、まずホッケーを好きになることが大事。

■ホッケーを始めたきっかけは？  
「ホッケーを始めたのは小学5年のとき。父が小学校ホッケーのチームコーチにいたのがきっかけです」

実は大家さんの父は高校時代からホッケーに打ち込み、インターハイに出場していました。親子2代でインターハイ出場を果たしていることに。「父に無理やりさせられたというよりは決してなく、自分の意思で、やりたいと思いはじめました」

■ホッケーの楽しさ、難しさは？

「ホッケーは仲間と協力して点を取るところが楽しいです。個人競技ではな

く、チームプレーがとても大切。中学・高校・大学とチームの中で友情も深まり、中学校時代からのチームメイトとは今でも連絡を取り合っています。

難しいところは、スティックの片面とエッジ部分のみでボールを運ばなければいけないところですね」

■ポジションは？

「フォワードで、点を取りに行く担当です。チームを盛り上げるためにも『絶対に点を取る！』という勢いで毎試合臨んでいます。点を取ると、チームにも勢いがつくので」

■ユニバーシアード大会に参加して

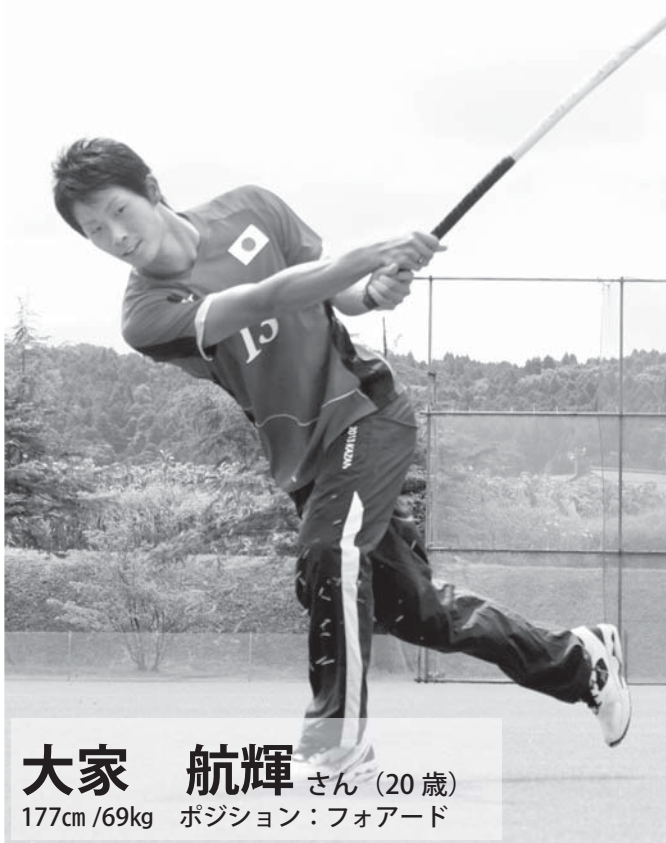
「ロシアも夏ですが、日本と違い乾燥していてプレイしやすい気候でした。対戦はフランス、ドイツ、ウクライナ、韓国、イタリアの5カ国と対戦。1勝2敗2引き分けで海外で1勝することの難しさを痛感しました」

今大会で大家さんは全5試合に出場し、韓国戦で2得点を挙げました。後半は日本チームの流れに持ち込み最後まで諦めず戦い抜くことができたといっています。

「ホッケーは日本ではメジャーではないので、観客席は比較的少ないです。今大会ではたくさん観客がいて、外国の方が、日本チームを応援してくれました」

地元の方や家族、友人の応援はもてるん嬉しいが、国境を越えての応援で、ますます期待に応えたいとの思いが高まったそうです。

「ディフェンスにしていた海外選手は2mほどありました。体で当たってもかなわないので、もっとスピードとテクニックを磨いていきたいです」



**大家 航輝** さん (20歳)  
177cm / 69kg ポジション：フォワード

●プロフィール…小学校からホッケーを始め、富来高校でインターハイ出場を果たす。現在山梨学院大3年生。ホッケー部で日々練習に打ち込んでいる。

今回、初めての海外戦。自分の改善点や目標が改めて見えてきたようです。

■久しぶりに志賀町に帰省して

「実家はやっぱり落ち着いて、伸び伸びしています。魚が食べたいですね。特にアジや鯛の刺身が好きです」

大家さんの実家は海の豊富な福浦港。祖父は漁師。魚が好きで、小さい頃から新鮮な魚をたくさん食べてきたのでしょう。日本を代表するホッケー選手にまでなったのは、そこにも秘密があるのかもしれない。

■志賀町のホッケー選手にメッセージ

「うまくなるには、まずホッケーを好きになることが大事。好きなら、どんなに辛い練習も、頑張れる！」

■最後に、今後の目標は？

「秋の全日本大学選手権大会で優勝することが目標です」

常に目標を持ち、向上心を忘れない、大家さん。チームの仲間を大切に、試合でも最後まで諦めない粘り強さが強さの秘密かもしれません。

「ふるさとに恩返しできるように、全世界の日本代表を目指し、もっと体力、技術を磨いていきたいです」と力を込めました。



◀胸のマークは日本代表の証。日の丸の重みをユニフォームを着てしみじみ感じたとのこと



富来中女子ホッケー部

JOC ジュニアオリンピックカップ  
第43回全日本中学生ホッケー選手権大会  
でベスト8

自分たちのプレーをしてきます

8月2日(金)に行われた北信越中学校大会で富来中女子ホッケー部は3位に入賞し、3年連続で全国大会への出場を決めました。キャプテンの東沙菜さん(3年)は「北信越大会で見つけた課題を克服し、チーム一丸となってベスト4を目指します」と全国大会への意気込みを話しました。副キャプテンでゴールキーパーの山本磨依さん(3年)は優秀選手に選ばれ、「自分たちのプレーをしてきます」と語りました。

8月16日(金)、岐阜県で行われた全国大会では、予選リーグを突破。決勝トーナメント



全国大会に向け気合いを入れる女子ホッケー部



志賀ジュニアT・C  
志賀ジュニアDream

全日本ジュニア綱引選手権大会で  
「志賀ジュニアT・C」が優勝、2連覇!!  
(18歳以下の男子ユース500キロ以下級)  
「志賀ジュニアDream」がベスト8  
(12歳以下の男子ジュニア360キロ以下級)

皆さんの応援のお陰で優勝できた

志賀地域の小学生でつくる綱引きチーム「志賀ジュニアDream」と中高生の「志賀ジュニアT・C」が、8月4日(日)に東京で行われた全日本ジュニア綱引選手権に出場し、好成績を収めました。

志賀ジュニアT・Cが男子ユース500キロ以下で全国優勝し2連覇を果たしました。男子ジュニア360キロ以下では、志賀ジュニアDreamがベスト8に入りました。

キャプテンの藤井勇佑君は「連続優勝することができました。」



優勝した志賀ジュニアT・Cの全国大会での競技

きとても嬉しいです。応援してください方々のお陰です。本当にありがとうございますと喜びを語りました。

緊張したけど準優勝できて嬉しかった

全国少年少女レスリング選手権の小学生の部2年生32キロ超級で準優勝した志賀ジュニア教室の赤坂和哉君(高浜小2年)が7月30日(火)、志賀町役場を訪れ、小泉町長に喜びを報告しました。

大会は7月26日(金)から28日(日)に札幌市で行われ、赤坂君は持ち前の度胸の良さで力を発揮し、準々決勝と準決勝で判定勝ちしました。

決勝では一周り大きな千葉県の選手と戦い、試合中にぶつかって口元を負傷するアクシデントにもめげず、最後まで戦いました。決勝は判定で敗れ、準優勝となりました。

小泉町長が「これからも練習に励み優勝をめざしてください」と激励しました。赤坂君は「初めての大会で緊張したけど準優勝できて嬉しかった」とメダルを手を胸を張りました。

赤坂君が5歳の時、母からの勧めで、体力作りにスポーツ教室に参加。週一回マット運動などをするうちにレスリングに興味を持ち、レスリングを始めました。現在は毎日練習に励んでいます。



赤坂 和哉 君 (高浜小・2年)

全国少年少女レスリング選手権 準優勝  
(小学2年の部 32キロ超級)



北信越少年相撲選手権で優勝、  
団体3連覇を達成!!

わんぱく相撲全国大会 団体第6位

### 全国6位…次の大会でリベンジしたい

志賀相撲教室Aチームのメンバー、6年生・奥田琢朗君（富来小）、5年生・北野堅太君（高浜小）と4年生・永江隆和君（高浜小）の3人が、7月21日(日)、珠洲市で行われた北信越少年相撲選手権で優勝し、団体3連覇を達成しました。奥田君は個人戦でも優勝しました。

直後に東京の両国国技館で行われたわんぱく相撲全国大会では、奥田君と北野君が羽咋郡市チームの一員として出場し、129チーム中、団体6位に輝きました。



大会の結果を報告する志賀相撲教室

し、さらに強くなつてほしい」と激励しました。北野君も全国大会で力を発揮できなかったことを悔やみ「次の大会でリベンジしたい」と力を込めました。

### 自己ベストを尽くしたい

石川県小学校陸上競技大会で好成績を収めた、走り高跳びの橋川君（1m33cm・県体1位）、80mハードルの花島君（14秒22・県体2位）、女子100mの川畑綾香さん（14秒43・県体1位）が、7月19日(日)に役場を訪れ、全国大会出場に向けて、健闘を誓いました。

3人とも「自己ベストを尽くしたい」と意気込みに話しました。穴田教育長は「平常心で普段の力を発揮し目標を実現してほしい」と激励しました。



川畑 綾香さん (富来小・5年) 花島 育斗君 (志加浦小・6年) 橋川 遼君 (上熊野小・6年)

### 全国小学生陸上競技交流大会出場

走り高跳び（橋川 遼君）・80mハードル（花島 育斗君）  
女子100m（川畑 綾香さん）

目標を持って、頑張る志賀っ子たち。勝つて日々の努力と練習が報われる日もあれば、負けて悔しい思いをする日もあります。その経験をバネに、次に力を発揮することもできます。スポーツを通じて、地域の人の応援に感謝したり、その気持ちから何か別の形で地域に貢献することもできます。頑張る志賀っ子の姿には、周りの人を感動させる力があります。

これからも皆の今後の活躍を期待しています。

高浜小学校の代表委員12人の子どもたちが今年の6月から月に一回、率先して掃除をしています。皆が使う地下道、奇麗に守っていきましょう！そんな気持ちが行動になりました。（撮影…8月6日）

## 県内最大の太陽光発電所を開設 太陽光発電所完成式



◀ 4,480枚ものパネルが並ぶ富来太陽光発電所  
▶ 修祓式でのお清めの儀式



栢木に本社をおく石田工業(株)が、遊休地を活用して出力990K Wの大規模な太陽光発電所を開設しました。

完成したのは「富来太陽光発電所」で、8月2日(金)に、関係者らが発電所の事業開始を祝いました。点灯式で辻口光政社長は「近年の売上高は、バブル期と比べて半減し、建設業一辺倒の限界を感じていた。地域企業としてエネルギー問題にも積極的にかわかりたい」と挨拶しました。

年間の想定発電量は104万K W時で、一般家庭250軒の年間電力量を賄え、発電した電力は北陸電力に売られます。



発電所の点灯ボタンを一齐に押す様子

## ばちさばき華やか 県内初の女性太鼓大会

7月21日(日)、県内初の女性太鼓奏者による大会「第1回県下女性太鼓打競技加茂大会」が加茂高齢者センター(倉垣)で行われました。女性ならではの美しさとともに、男性にも負けない力強い演奏で来場者を魅了しました。

地元のほか、穴水、輪島、七尾、氷見から中学生以上の部に31組、小学生の部に44組が参加しました。

▼大人の部 大関 北野瑞稀・田中暁子(七尾・鶴浦豊年太鼓) 関脇 小山彩里緒・平本綾香(輪島・和太鼓寅之助) 小結 高嶋由紀美・名山智子(志賀・大念寺八幡太鼓)

▼子どもの部 大関 田中陽花理・堀江美海(氷見有磯太鼓保存会) 関脇 高嶋桃羽・木坂有希(志賀・大念寺八幡太鼓) 小結 川畑綾乃・川端光月(輪島・和太鼓寅之助)



表彰を受けた女性太鼓打ち奏者の皆さん



写真に見入る親子連れ

## アスクの催事場にて開催 昔懐かしい地域の写真展

増穂浦ショッピングモール・アスクの催事場で、昔懐かしい富来地域の写真展を開催しています。

この企画はアスクを訪れる利用者の声により始まりました。祭りや、昔懐かしい風景、顔ぶれなどが並び、買い物に来た利用客は足を止めて、写真に見入っていました。写真は随時交換されています。

今年は、八朔祭礼壮年会の主催で、8月24日(土)と25日(日)に行われる八朔祭りのフォトコンテストを開催し、9月12日(木)から23日(月・祝)まで写真展を開催する予定です。



見送る家族らに「行ってきまーす！」と元気に挨拶し、出発

色んな人種・文化と触れ合っ

## 青少年海外派遣出発式

中学生14人が9泊10日の日程でオーストラリアのブリスベン市にホームステイに行ってきました。7月26日(金)、役場で行われた出発式では、生徒代表の金森風音さん(富来中3年)が「日本の代表として礼儀正しく振る舞い、海外の自然や文化を学んでいきたいです」と挨拶しました。

富来中3年の久木佑香さんは「とても貴重な体験ができることに感謝して行ってきます」と話しました。

見送る家族らに手を振り、元気に出発しました。10日後、色んな経験を学んできた14人は、元気に帰宅しました。

## 子どもたちが演出する先祖の迎え火 上野のおしょうらい

8月13日(木)、上野の海岸線でおしょうらいが行われました。「おしょうらい」とは、先祖の霊である精霊様(しょうらいさま)があの世界から帰ってこられるようにたいまつ(たいまつ)の明かりで招く迎え火のことです。地元では「おしょうらい」とも呼ばれています。子供会のイベントで、上野青年団も手伝い、竹とわらで大きなたいまつを作りました。火をつけ燃やす時に「おー、しょうらいしょうらい」などとはやし声がかげられました。毎年8月13日の夜に志賀町内の各海岸線の地区毎で行われています。



暗くなる頃、大きなたいまつに火をつける子どもたち

女性キリコ、威勢よく

## 熱気に包まれた西海祭り

女性がキリコを担ぐことで知られる西海祭りが8月14日(水)の夜、西海地区で行われました。浴衣に赤やピンクの腰巻き、エプロン姿の女性が男性に交じって声を張り上げ町を練り歩きました。大小14基のキリコの明かりを揺らしながら進み、時折キリコを迫り上げて見せ場を作ると、見物客から歓声が上がりました。大漁と航海の安全を祈る西海神社(風無)と松ヶ下神社(風戸)のお祭りです。女性が参加するのは、かつて男性が漁に出て担ぎ手が減ったこと由来するといわれます。



西海祭りは、女性がキリコを担ぐめずらしい祭り

能登中核工業団地

## UHT(株)が工場を増設

能登中核工業団地で生産用機械・器具を製造しているUHT(株)が工場を増設し、8月8日(木)に竣工式が行われました。今回整備された能登第6工場では、需要が拡大するスマートフォン向けの部品を加工する機器が製造されます。

式には谷本知事や小泉町長など約30人が出席し、松本二三秋社長は「社員が一丸となって能力を発揮し、志賀町や石川県ひいては日本の活性化につなげたい」と挨拶しました。小泉町長は「能登工場で新工場を増設いただいたことは大きな喜びです。今後も雇用・産業創出に寄与され、地域全体の活性化につながるよう期待しています」と祝辞を述べました。



▲能登中核工業団地に増設されたUHT(株)の新工場  
▶松本社長(左)の説明を聞く谷本知事と小泉町長

